

村山喜左衛門塾

村山家は古く、おそらく山辺町大蔵出身の初代喜左衛門が寛永4年（1627年）に亡くなっていることから、江戸初期の頃には長崎に在住した旧家といえます。

村山家の文書には名主として活躍した喜左衛門の名がしばしば見られ、正徳2年（1712年）早魃に苦しんだ長崎領7か村の名主たちが、中郷村大明神山を自普請（※）で最上川の水を引くべく、堰の開削を寒河江代官所に差し出しています。（横尾）長右衛門の次に長崎村名主の1人として喜左衛門が連署しています（しかし、この願いは実現しませんでした）。

この弁証法印から自修は学びました。自修は生来極めて向学心が旺盛で、さらによき師匠に恵まれて成長したことから、自らも塾を開き、村内の子弟に漢字や書道を教えました。

また、村山家は代々お茶を商い、現在も和泉屋として茶舗を経営していますが、京都、大阪南部の泉州など、茶の仕入れで世情に明るく、文化の先端を知り尽くしていました。最上川舟運の発達で新参の店が進出し、文化5年に嫡子が亡くなってからは、商売専念よりも子弟を育てることに情熱を注いだようです。

文化7年（1810年）4月、自修の筆になる一門の変遷を記録した「祖」と題する一書が村山家に残されています。

※自普請：堤川除・用水・道橋などの普請において、周辺村落が費用を出して行った工事

※引用 中山町史 中巻 第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.47

～ レトルト芋煮商品試食会パート2 ～

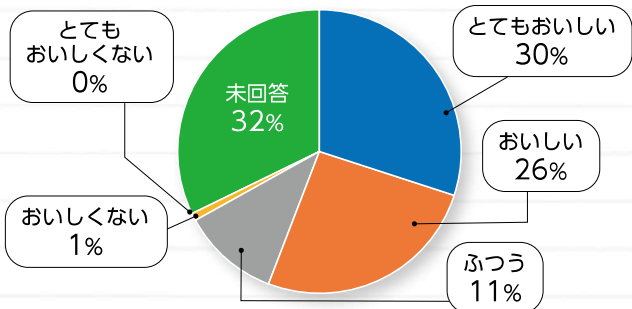


皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の伊藤です。広報なかやま4月号のコラムでご紹介したレトルト芋煮試食会のアンケート結果について少し触れさせていただきます。

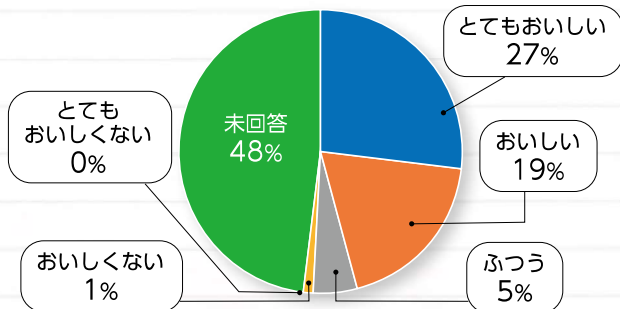
今回のコラムでは主に、レトルト芋煮の味に関するアンケート結果をグラフにて記載します。試食いただいた2つの芋煮について、「県観光物産会館ぐっと山形」と「道の駅米沢」で実際にアンケート調査したものです。

アンケート結果を参考にして、これからレトルト芋煮の商品化と販路開拓を行っていきます。

【棒鱈芋煮 味】



【牛肉芋煮 味】



●協力隊への問い合わせ先● 伊藤 ☎662-2114（産業振興課）／ 稲垣 ☎662-2235（教育課）